

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	子ども未来局	子ども部
		総務企画課		
事業名	中高生夢チャレンジ大学	基本	施策コード	主 7-5-1 再 1-8-4
事業開始年度	平成24年度	分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	
根拠法令	なし	施策	チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	若者の体験・活動の場や機会づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 若者の社会的・職業的自立が課題となっており、中高生の体験や活動の場の充実について、議会や審議会等においても指摘を受けていた。			
	施策成果指標			

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 中学生・高校生	対象をどのような状態にしたいのか 自分の可能性や創造力に気づき、自分の強みや個性を生かした職業や将来を考える。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

参加者: 90名(中学生71名, 高校生19名)

①開校式・宿泊研修(海の中道青少年海の家1泊2日)

- ・自分を知り、自分の可能性や創造性を掘り起こすワークショップを実施。

②講座

- ・起業、ファッション、食、まちづくり、ゲーム、メディア、観光の7テーマから2テーマ2講座以上選択し、受講。
- ・福岡で活躍する職業人から、人生観・職業観を直に学ぶ。

③開校式・交流会

- ・未来の自分への誓いを立てる。
- ・振り返りワーク

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	10,781	10,267	9,367
	歳入			
	特定財源	1	1	1
	一般財源	10,780	10,266	9,366

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	参加人数	目標	150	150	150	年度
		実績	123	90		
		達成率	82.0%	60.0%		
		目標				年度
成果の指標	講座の満足度	目標	100.0%	100.0%	100	年度
		実績	99.1%	100.0%		
		達成率	99.1%	100.0%		
	自分には創造力があると気づいた生徒の割合	目標		63.0%	64	年度
		実績	61.5%	73.7%		
		達成率		117.0%		

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・開校式、講座、閉校式の実施。
- ・夢チャレンジ大学の周知を図る。(チラシ・市政だよりの配布、ホームページ・Facebook、新聞広告等)

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・多くの中高生が夢チャレンジ大学に参加。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・自分の創造性に気づき、自分に自信を持つ。
- ・自分の将来を考える。
- ・社会への参画意識、職業意識を培う。
- ・コミュニケーション能力、ネットワーク形成能力を伸ばす。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・福岡の将来を担う若者ネットワークを構築し、都市の活力向上を図る。

行政のコントロール要素  
 小  
 大

外的な要因  
 小  
 大

活動の指標  
 小  
 大

成果の指標  
 小  
 大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	ミニふくおか	所管課名	こども未来局	こども部
事業開始年度	平成24年度	施策コード	主 1-8-4	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に	○子どもの主体性、社会性を育む新たな体験の場として、1特に平成24年度に力を入れて取り組む事項(特力)により計画された。 ○子どもが自ら考え、伝える力を育成するとともに、自分の暮らすまちへの関心をもち、福岡市のまちづくりへの参画意識を醸成する契機とする。	事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	
背景		施策成果指標	○地域の遊び場や体験学習の場への評価(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)(H28:60%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 小学校3年生～高校3年生	対象をどのような状態にしたいのか 仮想のまちづくりを遊びながら体験する事により、 ・子どもの創造性、主体性、自発性を育む。 ・子どものコミュニケーション能力を育む。 ・まちづくりへの参画意識を醸成する。 ・仕事体験を通じ、仕事や仕事の成り立ちへの興味を見出す。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか  
 実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

○NPOに運営を委託。  
 ○企画運営委員会にて、企画・運営、今後の地域展開についての課題等を協議。  
 ○子ども実行委員会を設置し、12回のワークショップの中で、まちの仕組みやルール、配置、参加する子どもの役割を決定。  
 ○青年サポーターやボランティアスタッフが、子どもたちをサポート。  
 ○会場内は、子どもたちだけで運営。

### 【開催概要】

- 開催日: 25年8月6日(火)～8日(木)11～16時
- 会場: 九電記念体育館
- 参加者数: 延べ1,704人

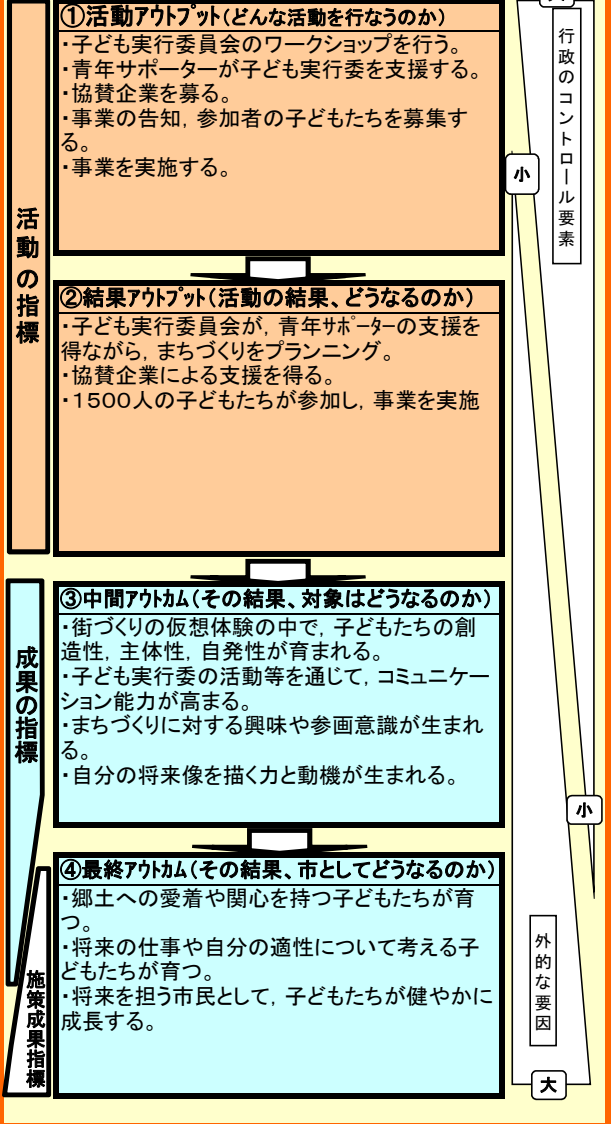
事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	15,018	14,715	15,250
	歳入			
	特定財源	0	400	0
	一般財源	15,018	14,315	15,250

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	子ども実行委員会参加者数	目標	30	50	40	年度
		実績	32	63		
		達成率	106.7%	126.0%		
	ミニふくおか当日への参加者数	目標	1,500	1,500	1500	年度
実績		1,290	1,704			
達成率		86.0%	113.6%			
成果の指標	楽しかったという参加者の割合(参加者アンケート)	目標	100.0%	100.0%	100	年度
		実績	97.3%	96.8%		
		達成率	97.3%	96.8%		
		目標				年度
	実績					
	達成率					

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	子ども未来局	子ども部
事業名	放課後等の遊び場づくり事業	施策コード	主 1-8-4	再
事業開始年度	平成15年度	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
根拠法令	なし	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 子どもの遊びは、体力向上はもちろん、コミュニケーションの力を育む、ストレスを解消するなど、子どもの成長に欠かせない要素といえる。 一方、近年では子どもが集まって自由に遊べる場や機会が減り、これが体力低下、キレやすい子や無気力な子などの増加につながっているとも言われることから、自由に安心して遊ぶことができる場が求められている。	施策成果指標	○地域の遊び場や体験学習の場への評価(地域の小中学生はさまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)(H28:60%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 小学校の児童	対象をどのような状態にしたいのか 放課後の学校施設を活用して子どもの遊びを活性化し、体力やコミュニケーション力の向上、ストレス解消、自尊感情の醸成等により、心身の健やかな成長を図る。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
●校区運営委員会、民間事業者等に運營業務を委託し、開催当日の見守りに地域・保護者の協力を得て、本事業を実施した。			
①開催日: 平日の週3日間程度			
②場所: 校庭(一部体育館、校舎内特別教室等)			
③実施校数: 74校(25年度末現在)			
④参加児童数(延べ): 132,222人			
●事業の活性化を図るため、人材育成事業を併せて実施。			
(1)プレイヤー(遊びのサポーター)養成講座<入門・実践編>: 5日間、修了者数56人。			
(2)学生プレイヤー育成事業(登録学生数43人。実習・支援日数(延べ)148日間。			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	196,676	217,091	226,377
	歳入			
	特定財源	57,236	75,097	72,722
	一般財源	139,440	141,994	153,655

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	新規開設校数	目標			年度
		実績	17	13	
		達成率			
		目標			年度
成果の指標	地域の遊び場や体験学習の場への評価	実績	5530.0%	5970.0%	6000%
		達成率			6500%
		目標			34年度
		実績			年度
		目標			年度
		実績			
		達成率			

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・本事業を開催する。
- ・本事業や遊びの大切さについて周知を図る。(チラシ、ホームページ等)
- ・人材育成を推進する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・児童が自由に安心して校庭で遊ぶことができる。
- ・本事業の実施校が広がる。
- ・本事業に関わる人材のスキルが向上する。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・遊びの引き出しが増えて、たくさんの友達と楽しく過ごすことができる。
- ・体力、コミュニケーション力が向上し、ストレスが解消される。
- ・自尊感情が醸成される。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

心身共に健やかに成長した市民が輩出され、市を担う一員となる。

行政のコントロール要素  
 小  
 大  
 外的な要因  
 大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	留守家庭子ども会推進事業	所管課名	子ども未来局	子ども部
事業開始年度	平成16年度	施策コード	主 1-7-3	再
根拠法令	児童福祉法 福岡市留守家庭子ども会事業の実施に関する条例	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ		施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 仕事と子育ての両立支援と児童の健全育成のため学童保育事業を実施しているもの だが、入会児童の増加や受入学年の拡大、開設時間の延長などに対応する必要が あったため、施設整備とあわせて事業の充実を図ることとした。H18年度の利用料制 度導入以降、開設時間延長や土曜日開設を既に実施、現在は受入学年の拡大を順 次進めている。	事業群	地域における子育ての支援	
		施策成果指標	子育て環境満足度 H28: 65% (政策推進プラン 中間目標値)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 保護者が労働等のために 屋間家庭にいない児童	対象をどのような状態にしたいのか 受け入れ学年を拡大し、全施設で6年生までの 通年受け入れを行うなど、サービス向上を図 る。

## 25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
全施設138カ所のうち、新たに23施設で4年生の通年受け入れを実施したほか、既に高学年の受け入れを行っていた施設を含め、全施設で少なくとも4年生の通年受け入れが可能な体制が整備された。また、留守家庭子ども会の運営にあたっては、市から指導員(嘱託員)を派遣するとともに、保護者や校区関係者、学校からなる校区ごとの運営委員会に委託し、地域住民も補助指導員として運営に協力する等、地域ぐるみで子どもを見守る体制となっている。			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	757,734	895,010	993,758
	歳入	299,315	338,373	362,089
	一般財源	458,419	556,637	631,669

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	全学年通年受入施設の割合(施設)	目標	67	91	113	27年度
		実績	67	91		136
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				
成果の指標	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	65.0%	34年度
		実績	60.0%	60.3%		70.0%
		達成率	92.3%	92.8%		
		目標				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
施設整備などの環境が整ったところから、受け入れ学年を順次拡大する。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
学年問わず、入会要件のある児童は入会が可能となる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
保護者は放課後の時間帯に、学校内の留守家庭子ども会に児童を預けることができ、その間、安心して就労や介護などに専念できる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
安心して子どもを生み育てられる社会の実現。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

小

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	子ども・若者活躍の場プロジェクト	所管課名	こども未来局	こども部
事業開始年度	平成24年度	基本	主	1-8-4
根拠法令	なし	分野別目標	再	
行政計画上の位置づけ	なし	施策		一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に福岡県の少年非行については、全国ワースト3位となっており、その非行少年の立ち直り支援の活動の場が求められている。また、現在、困難を抱える若者の相談窓口として市では、よかよかルームや若者相談窓口のほか、NPO等が行っている若者の相談窓口があるが、最終目的である就労にはなかなか至らない現状があったため。	事業群		子ども・若者の健全育成の取り組み
		施策成果指標		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ・立ち直りを必要とする非行少年 ・市内の困難を有する若者 ・支援を行っている団体	対象をどのような状態にしたいのか 困難を有する子ども・若者が活躍できる場の一つとして、まずは農業を体験する場や、栽培した野菜を販売する場を提供し、グループ活動を通して就労や更正に向けた第一歩を踏み出す機会を提供する。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
4月	作付け開始		
6月26日	代表者会議(今年度計画及び販売会について)		
6月	39ふぁ～む通信(広報誌)の発行		
6~7月	収穫及び作付、就農体験		
8月21日	就労に向けての勉強会(ワークショップ及び講義)		
8月24日	39メニューの開発(農作物を活用した商品開発)		
9月29日	販売会(「西区まるごと博物館」にて、収穫物及び加工品販売)		
9~10月	収穫及び作付		
10月	39ふぁ～む通信(広報誌)の発行		
10~11月	就農体験		
11月	エコ農園にて玉ねぎの植え付け		
12~1月	収穫及び作付		
3月12日	代表者会議		
3月	39ふぁ～む通信(広報誌)の発行		

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	1,914	2,743	3,117
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	1,914	2,743	3,117

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	参加団体数	目標	5	6	6	31年度
		実績	5	5		7
	達成率	100.0%	83.3%			
	目標				年度	
成果の指標	参加者の生活状況の改善	目標	10	10	12人	31年度
		実績	10	10		14人
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標				年度	
	実績	61.5%	73.7%			
	達成率					

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
 農業体験(作付け、収穫等)  
 参加者の交流会  
 収穫物及び加工品の販売会

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
 集団の中で作業を行うことで、社会性や主体性を身につけることができる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
 自分の居場所を見つけ、自己肯定感を持つことができる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
 困難を抱える子ども・若者が就労や更正に向けた第一歩を踏み出すことができる。

行政のコントロール要素  
 小  
 大

外的な要因  
 大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	若者のぷらっとホームサポート事業	所管課名	子ども未来局	子ども部
事業開始年度	平成24年度	実施コード	主 1-8-4	再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	新・福岡市子ども総合計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 困難を有する若者が気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごす中で相互に相談しあうことのできるフリースペースをつくる。	事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	
行政計画上の位置づけ	新・福岡市子ども総合計画	施策	自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 困難を有する若者が気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごす中で相互に相談しあうことのできるフリースペースをつくる。	事業群	子ども・若者の健全育成の取組み	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 非行や不登校傾向にある中高生を中心とした若者	対象をどのような状態にしたいのか 対象者の非行防止や不登校予防などを通じ、社会性や規範意識を育む環境をつくり、自立した社会人として成長する。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
○若者居場所の運営(子どもNPOセンター福岡へ運営委託)	・南区大橋にて毎週日曜日:計50回開催 のべ757名利用		
○実践団体や開設予定団体、市民を集めた交流会の開催	3月16日 九大橋サテライト 約40名参加		
○開設・運営する団体に対するノウハウの提供	○開設・運営する団体に対する財政支援		
○事業の周知・広報	・交付団体 2団体		

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	地域で活動する団体の数	目標	4	4	5	年度
		実績	4	5		
		達成率	100.0%	125.0%		
		目標				年度
成果の指標	少年非行率の低下(%)	目標	11.0	10.0	9.0	年度
		実績	9.8	7.9		
		達成率	112.2%	126.6%		
		目標				年度

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- ・若者の居場所の運営
- ・フォーラム、交流会、リーフ等による事業周知
- ・開設・運営する団体に対する財政支援

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- ・事業内容の理解浸透
- ・地域の居場所が拡充・定着
- ・中高生の居場所利用者が増加

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- ・非行や不登校傾向の緩和
- ・非行や不登校予防
- ・自己肯定感情等の醸成

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- ・社会性や規範意識を育まれ、自立した社会人として成長する

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		新規
事業名	児童家庭支援センター	所管課名	子ども未来局	子ども部
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 1-7-1 再
根拠法令	児童福祉法	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ		計画	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 近年の虐待相談の急増、子育てに悩む家庭や里親からの相談、休日・夜間の相談対応など、施設入所に至らない段階での専門的かつ柔軟な支援体制が求められている。	事業群	子どもの権利の尊重	
		施策成果指標	子育て環境満足度	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 子育てに不安を感じている 家庭・里親	対象をどのような状態にしたいのか 虐待につながる過程での早めの相談と専門的支援により、子育てで不安を解消し、虐待の未然防止と再発防止を強化する。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
NPOへ委託を行い、以下の相談業務等を実施する。			
① 休日・夜間(トワイライト)の相談対応 平日 ……………17時00分から20時00分まで 土・日曜日・祝日…10時00分から17時00分まで ※毎週水曜日、年末年始は休業			
② ファミリーホームや里親への支援			
③ 児童相談所からの委託による指導			
④ 一時保護の実施			
⑤ 区からの求めに応ずる事業			

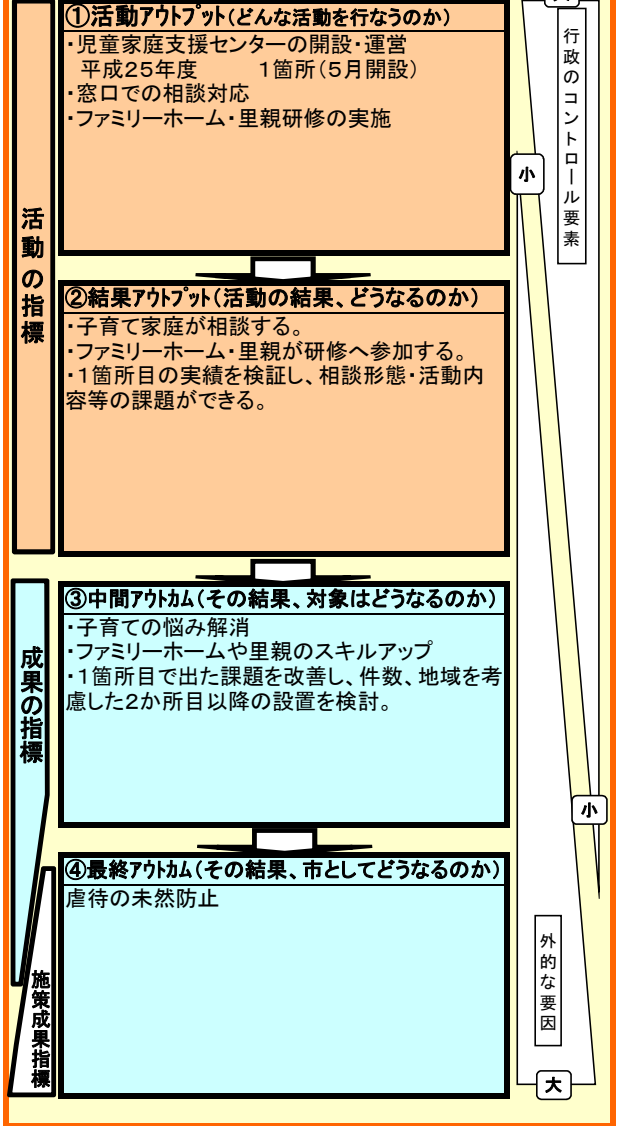
事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		12,005	12,660
	歳入	特定財源	6,002	6,330
	一般財源	6,003	6,330	

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	設置箇所数	目標	1	1	年度
		実績	1		
	達成率	100.0%			
	目標			年度	
成果の指標	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	34 年度
		実績	60.0%	60.3%	70.0%
	達成率	92.3%	92.8%		
	目標			年度	
	実績				
	達成率				

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう



# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	特別支援学校放課後等支援事業	所管課名	こども未来局	こども部
事業開始年度	18	基本	施策コード	主 1-7-3 再
根拠法令	特になし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	特になし	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 一般の学校に放課後の児童預かり先(留守家庭子ども会)があるのと同様に、特別支援学校の児童・生徒には放課後の預かり先がほしいとの強い要望や議会請願があった。	事業群	地域における子育ての支援	
		施策成果指標	・子育て環境満足度 ・地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 特別支援学校に通う児童・生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ・児童・生徒に放課後等の活動の場を提供。 ・保護者に就労やレスパイト(一時的休息)の時間を提供。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

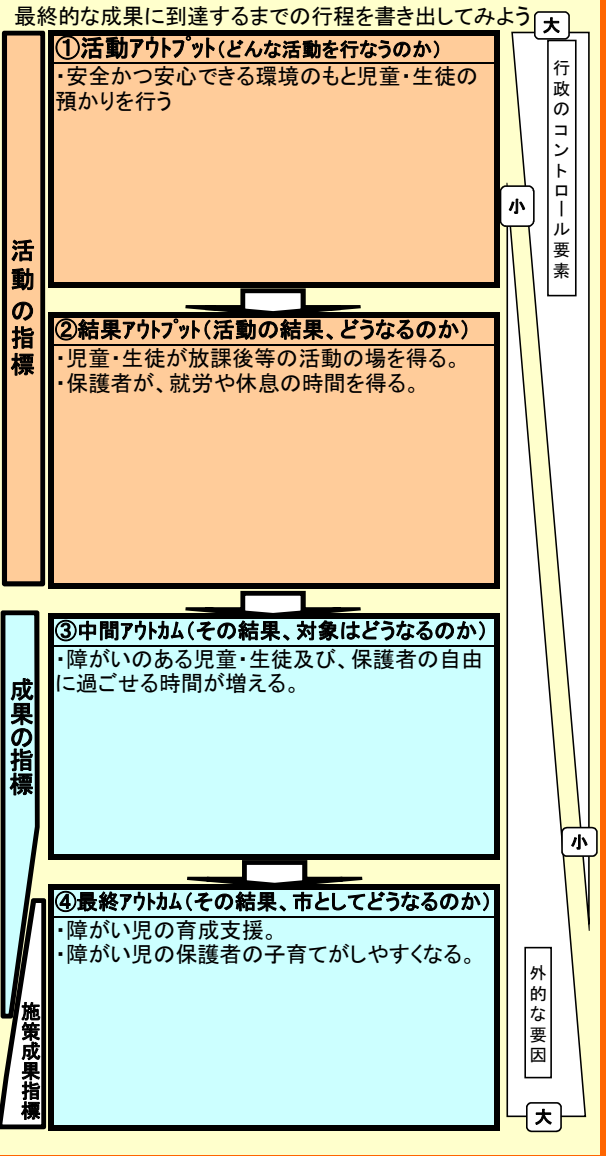
実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
・放課後や土曜・長期休暇中、知的障がい特別支援学校(5箇所)、肢体不自由特別支援学校(2箇所)、病弱特別支援学校(1箇所)で24年度に引き続き実施する。事業内容については下記のとおり。 <実施日時>平日:学校終了後から午後6時30分まで 土曜・長期休暇中:午前8時から午後6時30分まで <定員>12名~15名(知的障がい), 10名(肢体不自由) <料金>平日500円(今津は620円) 午前または午後のみ利用500円(今津は620円) 午前に引き続き午後も利用1,000円(今津は1,240円) <送迎>原則保護者。 今津特別支援学校においては、事業終了後の送りを実施。 ・福岡中央特別支援学校での放課後等支援事業にて1日の利用定員を12名から15名に増員。			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	158,042	158,912	159,740
	歳入			
	特定財源	92,324	82,764	112,104
	一般財源	65,718	76,148	47,636

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	放課後等支援事業実施学校数	目標	7	7	7	年度
		実績	7	7		
	調整数	目標	1,658	2,017	1191	年度
		実績	2,480	1,489		
成果の指標	子育て環境満足度	目標	65.0%	65.0%	65.0%	34年度
		実績	60.0%	60.3%		70.0%
		達成率	92.3%	92.8%		
	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	目標				年度
		実績				
		達成率				

## ロジックモデル作成用のテーブル





# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	発達障がい児放課後等支援事業	所管課名	こども未来局	こども部
事業開始年度	24	基本	施策コード	主 1-7-3 再
根拠法令	特になし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	特になし	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に発達障がいのある児童でかつ通常学級や特別支援学級に通う児童は、集団適応への困難さを抱えており、放課後の居場所についても健常児と同じ環境では難しく、発達障がいの特性に配慮した放課後の居場所が必要のため。	事業群	地域における子育ての支援	
		施策成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て環境満足度</li> <li>地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合</li> </ul>	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 小・中学校の通常学級及び特別支援学級に通う発達障がい児で留守家庭子ども会を利用していない児童・生徒とその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ・児童・生徒に放課後等の居場所を提供 ・保護者に就労や休息等の時間を提供

**25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

・放課後や、土曜・長期休暇中の発達障がいがある児童・生徒の預かりを、24年度に引き続き2か所(だんらん:早良区城西、ばんびーの:博多区吉塚)で実施する。利用にあたって、発達障がい者支援センターでの面談を行う必要がある。事業内容詳細については下記のとおり。  
 <実施日時>平日:学校終了後から午後7時まで  
 土曜・長期休暇中:午前8時30分から午後7時まで  
 <定員>5名  
 <料金>平日620円  
 午前または午後のみ利用620円  
 午前に引き続き午後も利用1,240円  
 <送迎>原則保護者。事業所近隣の小中学校に通われている方については、平日の学校から事業所までの迎えを実施。  
 ・事業者、発達障がい者支援センターとの情報交換の場として発達障がい児放課後等支援事業連絡会議を2か月に1回開催。

事業費(千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	10,658	20,215	20,142
	歳入			
	特定財源	10,568	10,594	15,105
	一般財源	90	9,621	5,037

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	実施箇所数	目標	2	2	拡大実施	年度
		実績	2	2		
	延べ利用者数	目標			拡大実施	年度
		実績	149	957		
成果の指標	子育て環境満足度(%)	目標	65.0%	65.0%	65.0%	34年度
		実績	60.0%	60.3%		70.0%
		達成率	92.3%	92.8%		
	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	目標				年度
		実績				
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- 市内2か所で事業実施。
- 連絡会議を行い、課題等の協議。
- 関係機関、保護者への周知

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- 本事業を利用する児童、生徒が増加する。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- 発達障がい児の放課後の居場所ができる。
- 保護者が就労しやすくなる
- 保護者が休息の時間が取れる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- 障がい児の育成支援
- 発達障がい児の保護者の子育てがしやすくなる。

大  
 小  
 小  
 大

行政のコントロール要素  
 外的な要因  
 施策成果指標

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	家庭的保育事業	所管課名	子ども未来局 子育て支援部	子育て支援課
事業開始年度	平成22年度	基本	施策コード 主 1-7-2 再	
根拠法令	児童福祉法	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	保育所整備の推進	計画	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に待機児童の急増に伴い、平成21年度に策定した「新待機児童解消プラン」に基づき、待機児童解消の一つの手法として導入。	事業群	安心して生み育てられる環境づくり	
		施策成果指標	○保育所入所待機児童数(H27:0人) ○子育て環境満足度(H28:65%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市内に住む、保育に欠ける0~2歳児	対象をどのような状態にしたいのか 0~2歳児の待機児童数を減らす。

**25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか**

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

認可保育所に委託を行い、新たな家庭的保育室11室(児童55人分)を開設。  
新規開設を含め、38室分(児童190人分)を委託した。

家庭的保育者等の人材確保のため、基礎研修等を委託により実施。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	218,436	370,705	386,726
	歳入			
	特定財源	56,870	97,105	133,343
	一般財源	161,566	273,600	253,383

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	基礎研修の実施回数(回)	目標	2	2	2	年度
		実績	2	2		
		達成率	100.0%	100.0%		
成果の指標	待機児童数	目標	0	0	0	年度
		実績	695	0		
		達成率				

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
既存の家庭的保育室の継続。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
待機児童の解消が図られる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
・児童が、健康で安全な環境で保育を受けることができる。  
・安心して働き、生み育てることができる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
・安心して生み育てられる環境づくりを行うことにより、市民サービスの向上が図られる。  
・雇用促進、企業体力の向上、女性の社会進出が図られる。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	小規模保育事業	所管課名	子ども未来局	子育て支援部
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 1-7-2 再
根拠法令	保育緊急確保事業	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	保育所整備の推進	計画	施策	子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に平成26年4月1日待機児童ゼロを達成するための手法として導入。	事業成果指標	安心して生み育てられる環境づくり	
			○保育所入所待機児童数(H27:0人) ○子育て環境満足度(H28:65%)	

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市内に住む、保育に欠ける0~2歳児	対象をどのような状態にしたいのか 0~2歳児の待機児童数を減らす。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法  委託含む  補助金含む  負担金含む

認可保育所に委託を行い、小規模保育事業15か所を開設。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		129,800	561,449
	歳入		74,667	263,186
	一般財源		55,133	298,263

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	小規模保育事業の定員増(人)	目標	150	150	年度
		実績	246		
		達成率	164.0%		
		目標			年度
成果の指標		実績			年度
		達成率			
		目標			年度
		実績			
		達成率			

### ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**

- 既存の小規模保育事業の継続。
- 26年度に新規開設をする。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**

- 保育所定員が増える。
- 待機児童の解消が図られる。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**

- 児童が、健康で安全な環境で保育を受けることができる。
- 安心して働き、生み育てることができる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**

- 安心して生み育てられる環境づくりを行うことにより、市民サービスの向上が図られる。
- 雇用促進、企業体力の向上、女性の社会進出が図られる。

行政のコントロール要素

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

外的な要因

# 26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	子育て見守り訪問員派遣事業	所管課名	子ども未来局	子ども総合相談センター	子ども緊急支援課
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード	主 1-7-1	再
根拠法令	児童福祉法 児童虐待防止法	分野別目標	施策	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ		計画	事業群	子どもの権利の尊重	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 児童虐待防止のために、通告後48時間以内の児童の安全確認を求められており、特に職員の対応が困難な夜間、休日の安全確認体制を早急に整備する必要がある。	成果指標	○「泣き声」通告を受理した児童の目視により安全確認した割合 (H25:41.9%)		

## 【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 児童虐待を受けている疑いがある0歳から18歳未満の児童及びその保護者	対象をどのような状態にしたいのか ○児童が心身共に安全な状態であることを確認する。 ○保護者を適切な相談機関に繋げる。

## 25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
<p>夜間、休日に子ども総合相談センターに虐待通告が入った場合、センターから委託業者に連絡を取り、委託を受けた「子育て見守り訪問員」が2人体制で、家庭訪問を行い、児童を直接目視することにより、安全確認を行った。また、育児に困難を訴える保護者を相談機関に繋いだ。</p> <p>・実訪問世帯数 133件 ・延べ訪問件数 203件 児童を直接目視できた割合 41.9%</p>			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	10,150	14,650	15,068
	歳入			
	特定財源	10,150	7,325	3,757
	一般財源	0	7,325	11,311

## 【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	訪問して児童を直接目視確認ができた割合	目標	70.0%	70.0%	70%	年度
		実績	34.7%	41.9%		
		達成率	49.6%	59.9%		
		目標				年度
成果の指標		実績				年度
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

## ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

**①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)**  
夜間、休日に子ども総合相談センターが受理した泣き声通告について、「子育て見守り訪問員」を家庭訪問させ、直接児童の目視により安全確認を行う。

**②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)**  
夜間、休日においても、48時間以内の安全確認ができる件数が増加する。

**③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)**  
児童の安全確認ができるとともに、育児不安などを抱えた保護者を早期に把握し、支援に繋げることができる。

**④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)**  
子どもが安心して暮らせて、保護者も安心して子育てができる。

行政のコントロール要素

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

外的な要因